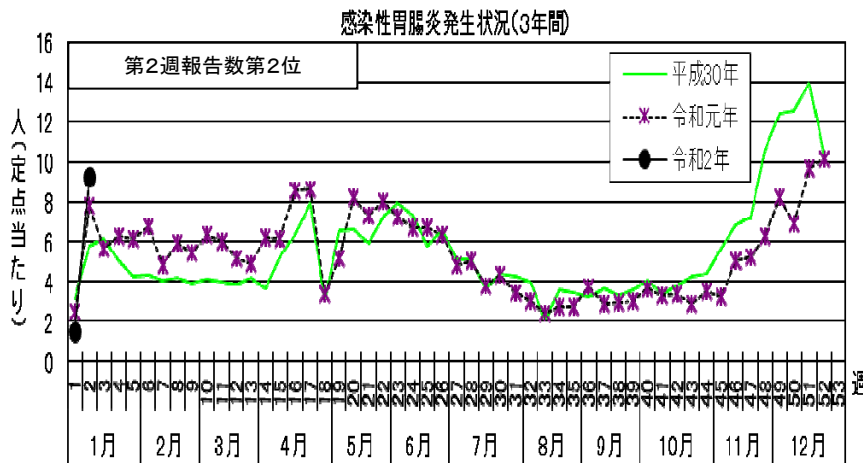
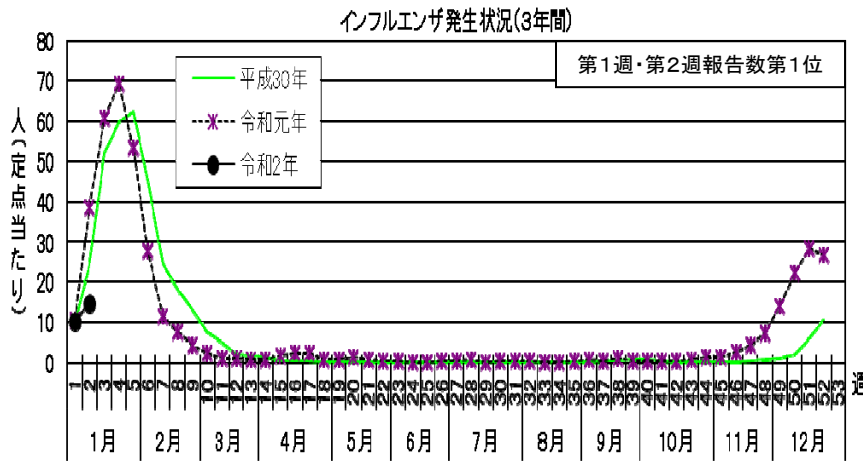


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月30日（月）～令和2年1月5日（日）〔令和2年第1週〕及び令和2年1月6日（月）～令和2年1月12日（日）〔令和2年第2週〕の感染症発生状況
 令和2年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)感染性胃腸炎でした。
 令和2年第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 令和2年第1週は、年末年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



気を付けたい感染症～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

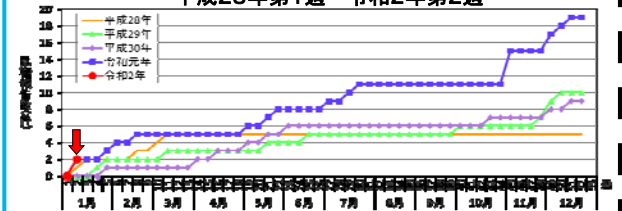
劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的な四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭炎などから始まり、発病から数十時間以内に腫れた患部の壊死など重篤な症状を呈し、多臓器不全やショック状態から死に至ることもある細菌感染症です。

川崎市における報告数は、平成30年までは年間10件以下でしたが、令和元年は累積報告数が19件と過去10年間で最多でした。令和2年においても、第2週（1月6日～1月12日）に既に2件の報告があります。

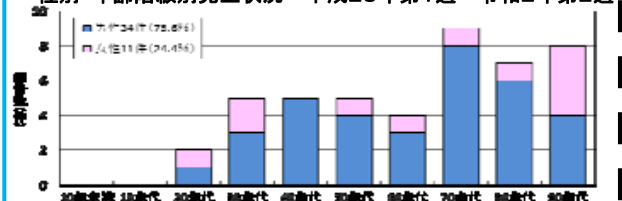
劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

- 【病原体】 主にA群溶血性レンサ球菌
 - 【感染経路】 創傷感染、上気道感染、手術部位感染など
 - 【主な症状】 最も一般的な初期症状は、急激に始まる疼痛です。続いて、圧痛あるいは全身症状（発熱など）がみられ、発病後数十時間以内にショックや多臓器不全などを引き起こします。局所的な腫脹、疼痛、発赤などの症状は、皮膚の傷口などの周囲にみられることが多いです。
 - 【好発年齢】 30歳代以上
 - 【治療】 抗菌薬治療、病変部の切除など
- 早期発見・早期治療が重要です！**

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症累積報告数
—平成28年第1週～令和2年第2週—



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症
性別・年齢階級別発生状況—平成28年第1週～令和2年第2週



川崎市においては、平成28年第1週から令和2年第2週までに45件の報告があり、男性が75.6%を占め、70歳代以上が半数以上を占めていました。